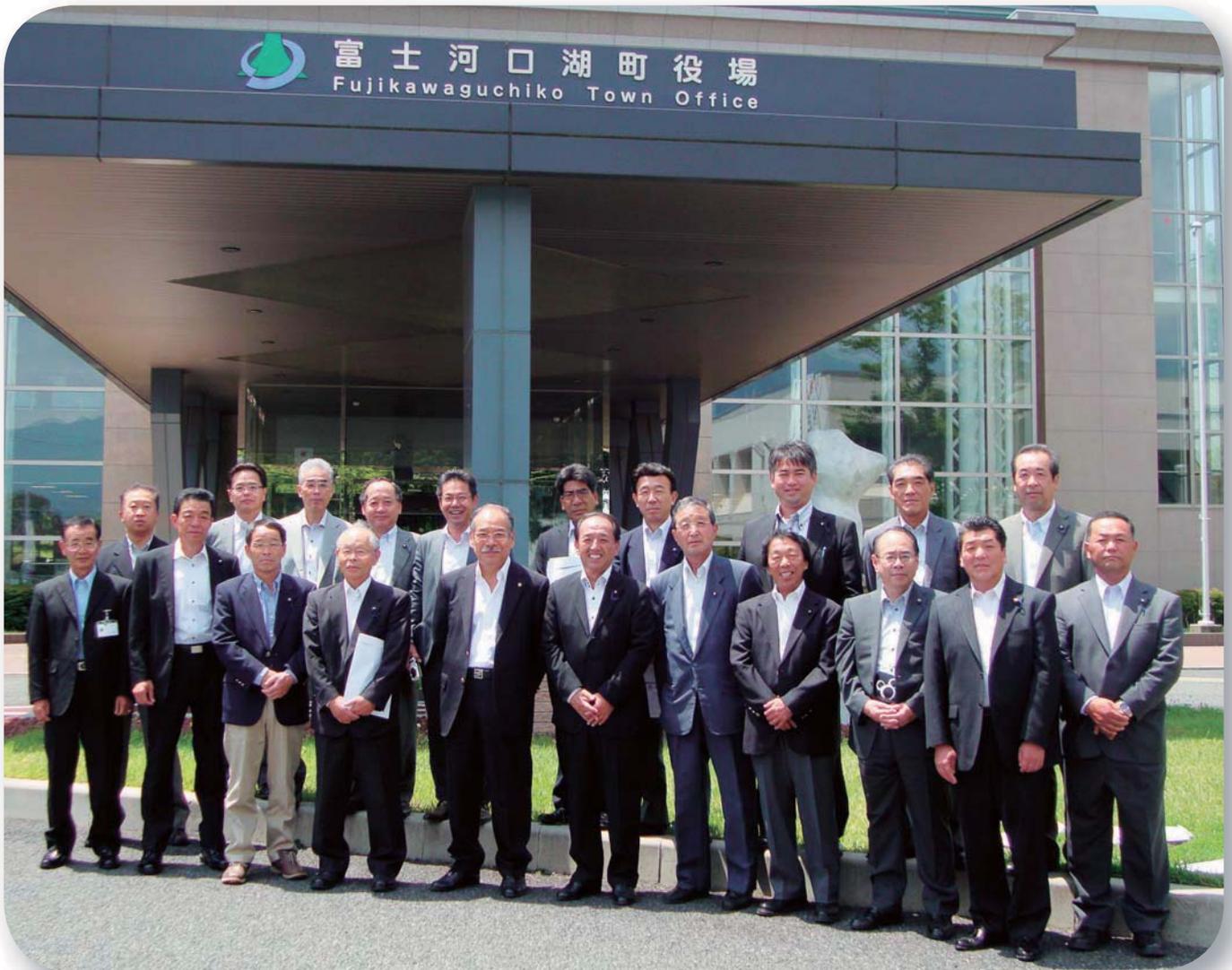


だいにぎ議会だより



議員研修視察（富士河口湖町）

第2回定例会で審議された議案	(2)
行政報告	(3)
一般質問に9人が登壇し、町政を問う	(4)～(12)
研修視察の報告	(13)
常任委員会研修・人事・あしがき	(14)

No.
170
平成24年
7月13日

平成24年 第2回定例会

補正予算額 8,923万円

補正後の予算総額 83億9,923万円

一般会計補正予算の主なもの

歳入	補正額
地方交付税	6,728千円
国庫支出金	18,920千円
県支出金	14,641千円
町債	46,400千円

歳出	補正額
庁舎非常電源設備工事費	5,230千円
新規就農総合支援事業費補助金	14,250千円
学校施設耐震補強工事実施設計業務委託料	17,657千円
災害復旧費	19,142千円

平成24年第2回定例会が、6月6日から14日までの9日間の会期で開かれ、平成24年度一般会計補正予算、条例の改正など町長から提出された議案5件、報告1件を慎重審議し、すべて原案どおり可決しました。

また、選挙管理委員会委員と同補充員の選挙が行われ、それぞれ4人が当選されました。改選後初となる一般質問では、9人の議員が登壇し、町政全般についての質問が展開されました。

提出議案等と審議結果

議案番号	議案名	結果
町長報告第1号	平成23年度大子町一般会計予算繰越明許費繰越計算書の報告について	報告済
議案第38号	大子町一般廃棄物処理施設に係る生活環境影響調査結果の縦覧等の手続に関する条例	原案可決
議案第39号	大子町印鑑条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第40号	大子町火災予防条例の一部を改正する条例	原案可決
議案第41号	人権擁護委員候補者の推薦について	原案適任
議案第42号	平成24年度大子町一般会計補正予算（第1号）	原案可決
選挙第5号	大子町選挙管理委員及び選挙管理委員補充員の選挙について	当選

第2回定例会

行政報告

出資団体の事業報告について、財団法人大子町開発公社、奥久慈だいがご築漁業組合、大子おやき学校に関する事業実績の報告が行われました。

◇(財)大子町開発公社
全体の経常利益は6億5190万870円であり、

これに対する経常経費は6億4400万5588円で、789万5282円の黒字決算となりました。「フォレスパ大子」と「オートキャンプ場」は平成21年度から一体として管理しており、「やみぞ」は平成23年7月1日にオープンしています。

◇奥久慈だいがご築漁業組合
入客者数が福島第一原発事故に伴う風評被害により大幅減となり、売上高は前年比1703万2489円の減収で、177万5971円の赤字となりました。



◇大子おやき学校
原発事故に伴う風評被害が大きく影響し、売上高が前年比380万3658円の減となりましたが、東京電力からの風評被害損害賠償金もあり、129万406円の黒字決算となりました。

出資団体決算状況

(財団法人 大子町開発公社)

		経常収益	経常費用	経常損益	利用者数
土地開発部門		482,375円	482,375円	0円	
受託施設部門	大子温泉保養センター「森林の温泉」	113,702,886円	111,843,505円	1,859,381円	92,371人
	大子町観光物産館「道の駅 奥久慈だいが」	114,184,364円	109,133,422円	5,050,942円	128,506人
	八溝山展望台	1,269,300円	1,269,300円	0円	
	袋田観瀑施設	60,658,364円	60,658,364円	0円	442,532人
	東京理科大学大子研修センター	24,225,382円	24,225,382円	0円	2,723人 (4~6月は被災者受入施設で利用)
	町営宿泊施設「やみぞ」	154,028,852円	153,043,893円	984,959円	10,622人
	計	468,069,148円	460,173,866円	7,895,282円	
広域公園部門	フォレスパ大子・オートキャンプ場(一体管理)	150,134,347円	150,134,347円	0円	フォレスパ 48,450人 オートキャンプ場 26,089人
	広域公園	33,215,000円	33,215,000円	0円	
	計	183,349,347円	183,349,347円	0円	
合計		651,900,870円	644,005,588円	7,895,282円	

		経常収益	経常費用	経常損益	利用者数
奥久慈だいがご築漁業組合		37,553,159円	39,329,130円	△1,775,971円	21,022人

		経常収益	経常費用	経常損益	利用者数
大子おやき学校		22,538,176円	21,247,770円	1,290,406円	5,717人

東海第二原発の再稼働は

答 現状のままでは稼働を認めにくい



佐藤正弘 議員

問 朝日新聞の東海第二原発の再稼働等のアンケートに対し、再稼働「反対」と回答しているがその理由はどのようなものか、また、廃炉、自然エネルギーへの転換の意志を明らかにすべきではないのか。

答 町長 再稼働については、国の安全対策や事故等の対策が明確でなく、住民の安全・

安心が確保されないとの理由で「現状のままでは稼働を認めにくい」と回答した。廃炉、自然エネルギーの転換については、原発にかわるエネルギーに本格的に国が取り組んで、エネルギー供給が可能になれば、原発を順次減らしていくことができるのではと考えている。

問 原発から新たな自然エネルギーへと転換を求める脱原発市長会議がある。町長も国がやらなければこの立場で提案していったらどうか。

答 町長 そういった団体があるのも承知している。自分なりに今後、勉強をしていく。

放射性物質の

測定結果と課題は

問 今年はお茶の生産、収穫が行われ、東京電力対

応のもの、国・県・町の補助金で放射性物質測定する



▲役場前に設置された放射線量測定器

機器が導入され検査が行われた。補助金が使われていることはその実態、効果を把握することは町の義務である。検体数、測定値、収穫量、生産農家数は、また、今後、奥久慈茶としての課題や展望をどの様に考えているのか。

答 町長

4月9日、出荷制限が解除された。加工に当たっては、奥久慈茶業組合が独自に全量の放射線量の検査を

行い、安全を確認した上で製茶し出荷しているところである。茶業組合に確認したところ、加工の最盛期のため検査の集計は出来ないということである。量的な公表は最終的に皆さんにも報告できるものと考えている。収穫量については、原発事故前と比べ3割から4割減収しているというところである。今後、消費拡大に向けたPR活動、高齢化にともなう耕作放棄地の集

約の橋渡しを行っていく。

答 農林課長

町として、生茶は4月に5検体、5月に28検体を行い、いずれも基準値以下だった。

公共施設への木材利用方針は

問 公共施設への木材の促進を目的に、国が各自治体に求めている「木材利用方針」について、森林が町の面積の7割を占める大子町では作成していないと報道されているが、対応が遅いのではないか。

答 町長

現在、町では策定していないが、していないからと言って木材を活用しないという意味ではない。林業の振興のためにも大変有効かと思うので、しっかりと検討し協議を進めていく。

その他の質問

○防災と今後の町づくりについて

○子育て支援と黒沢中学校の統廃合について

町の防災・減災対策に改善策を

答でできるだけ早急に検討する



野内健一 議員

の事業には参加しない。

問 大規模災害時に的確な情報を発信するため、遠隔地の自治体と相互に連携して、お互いのホームページを代理掲載する仕組みは。

答 町長

現在、町の情報等のデータは、町外のデータセンターに保存されていて、データセンターへのアクセスが可能な限り、情報更新は可能だが、アクセスが集中してつながりにくくなる場合には、有効と思われるので今後検討する。

問 大震災時における行政の事業継続計画は。

答 町長

住民基本台帳等の基幹業務のデータをデータセンターへ移すことによって、本庁舎に不測の事態があっても、速やかに町の重要業務を再開できるクラウド化の推進を図っている。
問 今回の大震災の被災地に設けられたほとんどの避難所に、授乳スペースや女性の更衣室が準備されなかったが、町の防災計画に女性からの視点、母親からの点検が必要と思われるが。

答 町長

大子町地域防災計画の検討、点検作業には、3人の女性職員を参加させて女性や母親からの立場も配慮したいと考えている。

問 静岡県が開発した災害時の避難所運営を、図面とカードを使って訓練するシミュレーションゲームが注目されているが、町としての活用は。

答 町長

総合防災訓練の実施を踏まえ、避難所運営にかかわる諸問題を事前に整理する手段として、導入するかどうかが検討する。

電力調達先の変更と節電対策に再検討を

電力調達先の変更と節電対策に再検討を

問 大子町の電力調達先を特定規模電気事業者（PPS）へ変更する考えは。

答 町長

昨年、東京電力からの供

給量不足が懸念された時点で、いくつかの事業者へ問い合わせをしたが、対応が難しい状態であった。

ただし、現時点において



▲節電呼び掛け（役場庁舎内）

は再検討する必要がある。
問 各庁舎内の照明をLEDへ変更する考えは。

答 町長

多大な交換費用と今後の技術改良を考慮すると、時期尚早と考える。

小中学校の再編と教育委員会の方針は

答 地域・地元の意見を尊重する



鈴木陸郎 議員

問 黒沢中と大子中の統合計画について、経過説明を。

答 教育長

平成24年2月16日に適正配置等検討委員会から示された。黒沢地区で説明会を行ったが、今後さらに保護者、地域住民への情報提供を積極的にする。教育委員会では平成25年4月1日統合について議会に提案する。問 適正配置等検討委員会の位置づけについて。

答 教育長

平成19年9月26日に委員会の要綱が制定され、その趣旨は地域、地元の意見を尊重し検討することです。

問 学校設置者（廃止者）としての町長の考えは。

答 町長

適正配置等検討委員会の結論を尊重し対応する。

問 校舎、体育館等の耐震対策についての考えは。

答 教育長

平成24年度に残りの校舎、体育館について診断を



▲授業のようす（さはら小学校）

実施する。判定の結果により補強の設計、工事の方向で進めている。

問 小中学生による子ども

益子町政の

まちづくりビジョン

問 町長の任期は4年であるが、これはやりたい、予算化したことがあれば伺いたい。

答 町長

町には927haの耕作放棄地があり300haが耕作可能地である。それらを考えた農業政策を進めたい。問 具体的に何を考えているか。

答 町長

ミツバチの養殖、常陸大豆の生産、販売（六次産業化）の推進を考えている。問 耕作放棄地対策としてのミニ放牧場と和牛飼育農家に対してのヘルパー制導入を検討する考えはあるか。

答 町長

放牧は高柴の町営牧場でやっているのを利用してほしい。ミニ牧場については大規模化は難しいと考える。問 農業と観光が、まちづくりの基本と思うが、新たな観光開発の考えがあるか伺いたい。

議会の開催を要望していたが検討したか。

答 教育長

前向きに検討したい。

答 町長

大子ふるさと博覧会を5月の連休に開催した。今後も文化、芸術、産業のPRに努める考えである。問 県のある団体では、県北地域に森林セラピーコースづくりの構想があると聞くが、誘致する考えはあるか。

答 町長

県から事業計画が提示されれば手を挙げたい。



自然エネルギーへの取り組みは

答 先進地や財政状況を考慮し判断



金澤眞人 議員

問 木質、風力、太陽光、水力など自然を利用した発電に対する町の考えは。

答 町長

再生可能エネルギーは利用推進の必要はあると思うが先進自治体や費用対効果などを調査して判断したい。太陽光発電は来年「まいん」に設置する計画を立てている。

問 八溝川を活用した水力発電の可能性を調査しては。

答 町長

本調査前の予備調査というところで、水量や落差が問題であるが幾つかのメー

カーに見積もりをしてもらう事はできると思う。
問 八溝川には以前小型の発電所が幾つかあり、動力

放射能汚染物質対策について

問 放射能汚染重点調査地域に追加指定はされたか。

答 町長

今年1月に追加指定の希望調査があり希望した。まだ指定されていない。
問 追加指定になることでのメリットは。

答 町長

国による山林の除染方法や方針がまだ決定されていないが国の費用で除染ができる。
問 町北部で放射能汚染の説明会を行ったが反響は。また、今後の対応は。

答 町長

線量は周りの山林からの影響でやや高いが、現状の

用の水車を回す堰や水車も数多くあった。今後は水利使用の簡素化が見込まれる。水利権を発電に利用できないか。
答 町長

放射能汚染物質対策について

線量ではリスクがほとんどない。戸別の線量調査実行住居区域の試験的除染など、今後の対応は線量の推移や住民の要望など、関係機関と協議し検討する。

答 副町長

説明で分かりにくい言葉もあったが、スライドや絵を使って説明があり理解されたと思う。
問 昨年度の狩猟期間中の猪の捕獲数は。焼却処分数は。

答 町長

捕獲数は11月15日から3月15日までで185頭。
答 農林課長

処分した頭数は86頭。

問 焼却処分の場合、捕獲者が大変手間がかかる。助成金を1頭2万円に増額しては。
答 町長

学校統廃合について

問 黒沢中学校の統廃合に関して学校、保護者の考えは。また、これまでの経緯は。

答 教育長

2月16日に適正配置等検討委員会の提言を受け、統廃合に向け5月15日に黒沢地区説明会、6月4日に小中学校保護者話し合い、6月15日に2回目の地区説明会を行う予定である。
問 長い歴史のある学校を廃校にする場合、もつと早めに準備委員会などを立ち上げるべきではないのか。

答 教育長

正式な合意が得られたら、統合、閉校に向けて地域や保護者で委員会を立ち上げていただきたい。

どの放射性物質の状況は。
答 町長

久慈川の水から放射性物質は検出されていない。砂、藻の観測データはないが、これまで久慈川の水産物から規制値を上回る事例はない。



▲黒沢中学校

災害時に向け赤バイク隊の導入を

答 協議し検討していきたい



岡田敏克 議員

況になったこともある。そして災害では家屋、電柱、がれき、木材等で車の通行ができなくなるのが予想される。このような状態の時に狭い林道や交通渋滞に機動力を発揮するのが、災害時での消防活動赤バイク隊の導入です。

問 昨年の3月に大地震、津波、放射性物質の拡散で大きな被害が発生。今年の5月6日に県内では竜巻により、つくば市他で道路の通行止め、停電、断水、死者、負傷者、住宅の全壊、半壊、一部損傷の被害等これまで考えられない出来事が発生した。平成4年4月と平成9年3月に左貫、平成14年3月に男体山、平成17年4月に上野宮、平成21年10月に北吉沢と大きな林野火災計5件が発生している。車では現場に入るこ

とができず、情報も少なく伝達することもできない状

況になったこともある。そして災害では家屋、電柱、がれき、木材等で車の通行ができなくなるのが予想される。このような状態の時に狭い林道や交通渋滞に機動力を発揮するのが、災害時での消防活動赤バイク隊の導入です。

答 消防長

現在の職員数での対応は難しい。もし職員の増員等を含め条件が整えられたなら、赤バイク隊の導入は有効かと考える。消防団への赤バイク隊導入は緊急性や

維持管理等を考えると、かなり難しいと思う。
問 免許は自動二輪なので、団員の中には免許を持っている人もいると思われる。災害時の赤バイク隊

導入を是非検討すべきでは。
答 町長 職員の問題等があるので、今後協議し検討していきたい。



▲消防活動二輪車「赤バイク」

町管理施設の防犯対策は

問 (財) 大子町開発公社 について、関係する管理施設でこの1年間事故や事件

答 町長 があったか、なかったか。ケガや盗難等25件程度の

事故・事件等を承知している。いずれも施設管理者の支配人や公社事務局で適正な対応で処理している。
問 今年の2月から3月上旬に盗難事件2件が発生し鑑識課による現場検証も実施された。更に一週間前にもコインロッカーが壊される事件も発生している。

安心して施設を利用できるように防犯カメラ(録画可能なもの)を是非、施設出入口に1台設置してはどうか。
答 企画観光課長 森林の温泉については、平成12年にすべてのロッカーを鍵のかかるものに変更し、平成24年6月にはロビーに防犯カメラを設置した。

答 町長

あくまでも防犯上のカメラを設置するということと、いろいろなることを調査し、設置に向け考えたい。

その他の質問

- 水道事業について
- 子育て支援について

防災訓練で課題を見極める

答 大規模地震災害を想定し実施する



藤田 稔 議員

ない袋田コミュニティセンター1等の避難所の見直しや避難誘導案内板の設置が必要ではないか。

答 総務課長

地域防災計画の中で避難場所を設置し、早急に誘導案内板も設置したい。

問 大子町総合防災訓練はどの様な想定、計画で実施するのか。

答 町長

大規模地震災害を想定し消防団夏季訓練に災害対策本部を設置し、初動体制、避難訓練、避難所設置、炊き出し訓練等を行い、災害協定を締結した全団体に協力もしていただく。

問 停電時に給油機を動かす自家発電機の設置も考える必要があるのではないか。

答 町長

建設業協会と協議し、費用を掛けない方法をとる。問 避難所に指定されているのか。

風時において情報収集伝達等の連携はされたか。

答 町長

平成23年4月現在の組織率は17・9%、10地区で結成されている。

答 総務課長

10地区の詳細については把握していなかったため、今後地域防災計画の中に盛り込み連携したい。

問 大規模災害発生時において、他市町村との連携や災害時協定は考えているか。

答 町長

現在未整備であるが大洗町との締結を進めている。

まちの将来を担う人たちの

安住促進を

問 放課後児童クラブの現状と、放課後子ども教室の進捗状況、また課題は。

答 教育長

現在まいんは33名、だいが保育園は16名である。個人負担は利用月額千円、おやつ代2千円、タクシー代は全額町負担となっている。

子ども教室は、茨城県生涯学習社会教育研究会へ委託し、だいが小は56名、

生瀬小は6名、特別支援学校が6名で週2日実施している。新たに開設する5つの小学校でも7月の実施に向けて準備している。開催日を増やすことは実施状況を精査して検討したい。

問 出合いサポート事業において、飲食店組合や農協等と連携した、まちコンや農業体験等、ニーズに合った企画をすべきではないか。

答 町長

出来るなら立ち上げたい。

その他の質問

○活力あるまちづくりについて



▲放課後子ども教室開講式（袋田小学校）

通学路の安全対策を急ぐべきでは

答 危険箇所は早急に対応する



齋藤忠一 議員

問 通学途中の生徒が、車に巻き込まれるという大変悲惨な事故が相次いでいるが、大子町の通学路の安全対策、更には防犯灯などの整備を急ぐべきでは。

答 教育長

5月末の調査の結果、危

活力のある大子町にするには

問 大子町には、袋田の滝を中心として多くの観光客が訪れるが、更にはこの人達が、大子でくつろげる場所づくりや、PR等をして様々な所を散策してもら

険箇所、小学校においては、トータルで35箇所、そのうち緊急を要する危険箇所は15箇所、同じく中学校においては、36箇所の危険箇所があり、緊急を要する危険箇所は1箇所であり、特に緊急を要する箇所については、関係機関と改善策について協議をし、改善を図っていく。

答 町長

道路修繕、あるいは防犯灯の修繕と、いろいろあるが、危険箇所は早急に対応したい。

事により、町に活力を見出せるのではないかと考えるが、町長の考えは。

答 町長

自然豊かな大子町では、他では体験の出来ない楽し



▲だいが小学校通学路

む方法、そのような周遊コースを提供することが重要であり、そのようなことから、大子町に広がる豊かな自然

や名所、旧跡地等を紹介する、周遊モデルコースを作成し、誘客を図っていきたい。

小中学校の福祉教育

意識の高揚は

問 大子町では、平成24年度大子町障がい者計画・障

がい福祉計画（しあわせだいがプラン）を策定した。

その中に、小中学校の総合的な学習時間で、福祉の学習とあるが、意識の高揚につながっているか。

答 教育長

意識の高揚につながっており、豊かな心をこの教育活動によって育んでいると思っている。特に、道徳、福祉、人権を初め、生徒指導、特別活動に力を注ぐことは喫緊の課題であり、今回、町が作成した「しあわせ大子プラン」については、教育委員会として、プランを達成できるように、広報啓発活動や、保育、療育、教育の充実に適切に対応できるように、各学校に周知したいと考えている。

その他の質問

- 町旗の掲揚について
- 節電対策について



文化保存の屋台展示館の考えは

碓氷市街地活性化を含め調査検討中



大森勝夫 議員

問 屋台や彫刻の歴史的価値を検証し、該当するようであれば、町の文化財指定などを検討できないか。観光資源として広報する際、町指定文化財となれば集客効果も高まるのではないか。

答 町長 町の文化財になれば、宣伝効果が向上することは想定できる。今後、教育委員会との調整を図っていきたい。

問 町内にある屋台は歴史があり、優れた彫刻も現存している。組立解体時における破損事例などを懸念し、保存環境の改善のため、屋台展示館の要望書が昨年末に提出されている。町の対応と方針は。

答 町長 現在は調査段階であり、7つの町内会長さんと2回ほど話し合いをした。屋台を単に保管する場所としてだけでなく、袋田の観光客を中心市街地へ誘客し、活性化を助長できる施設としての可能性などを検討中である。

水郡線でのSL走行の周知と進捗状況は

問 本年秋に水郡線へSL走行が決まっているが、実施に向けての進捗状況をお聞かせください。

答 町長 運行については県の企画部交通対策室を中心として準備を進めている。集客イベントは、県や関係市町と連携しながら事前の誘客



▲大子町内会の屋台

キャンペーン、運行日の受け入れイベントを計画中である。町では、常陸大子駅前の展示SLや袋田の滝のライトアップ、駅からのハイキングや周遊グルメ号の運行などを検討している。

問 町のホームページには、SL運行の広報が載っていない。町民の中には、SLが走ることすら知らない方もいる。事前広報をしなければ民間独自の商業企画も進まないし、経済効果が高まらないのではないか。

答 町長 運行計画の詳細が未定なので、運行日などの発表を控えるよう指導されている。決定後、9月頃からPRキャンペーンを開始する予定である。

その他の質問

○町内各地区の活力創出について

表示できないのなら「大子町はSL運行の実現を目指しています」といったメッセージを広報し、大子町にSLが走るといった印象を与えるべきではないのか。SL走行の広報への努力についての考えは。

答 町長 町の封筒関係に広報を一行入れるなどいろいろ想定できる。関連部署と協議していきたい。

問 イベント時の限定走行だけでなく、SLの継続運行を水郡線で実現するために、町の考えと取り組み状況は。

答 町長 JRに要望はしているが、現状として機関車や客車、機関士、機関助手までJR支社以外から借用しなければ運行できない状況であり、これらの課題解決には時間がかかる。

学校給食で漆器の活用を

答 関係部署と十分に協議したい

と夢と希望を持って他県よ

り移住してきた志ある若者も数名いる。町としても、私達地域住民も一丸となり応援するべきと思う。また、福島県喜多方市では、市内の全小学校の食器が喜多方漆器を活用しているが、大



藤田友晴 議員

問 茨城県の漆は、全国第2位の生産地で、品質も良いと言われている。関係者も伝統文化継承のため、尽力されているが、町としての認識はどうか。

答 町長

茨城県における漆生産量のほとんどが大子町で生産され、品質の良さでも全国に知られている。町としても大子漆を守るため、奥久慈漆振興会や植林等への事業に補助をしており、今後とも歴史ある大子漆を守り、支援していきたい。

問 この大子漆に魅せられ、漆掻き職人になりたい



▲大子漆に魅せられ、移住して頑張っている漆かき職人

子町の小中学校でも取り組めないか。

答 町長

十分に関係部署との協議を重ねたい。

スマートシティー (町民総発電所構想) を

問 近年、地球温暖化対策の観点や東日本大震災以降の原発事故に伴う電力不足対策、安全保障対策の観点から、ますます関心が高まっている。各地域でもスマートハウス、スマートコミュニティ、スマートシティーを目指しての構想が進められようとしている。限りある化石燃料や原子力などのメガインフラを環境負荷の軽いクリーンエネルギーに転換していくことが必要。町も再生可能エネルギーの積極的な活用に取り組みべきと考えるが。

答 町長

いろいろな自然エネルギーを活用した発電があり、小水力発電についてもどの程度の水量で発電が起きるのか、いろいろなことを調査研究しなければならぬ。また、価格面や実用性、町民の方々に供給する

上でのメリットがあるのか、調査研究を今後進めたい。

問 世界的には3000〜4000のスマートシティー構想がスタートしており、近くでは栃木県足利市が「他からの燃料、電力の依存だけでなくエネルギーの地産地消」ということで動いている。創電、節電、蓄電という三本柱で市民全体で取り組んでいる姿勢を評価すべきと考えるが。

答 町長

バイオマスエネルギーを使った発電は現在検討はしていない状況。例えば100tの燃料の場合は2〜3%しか使えないし、スギ、ヒノキは適していない。雑木だけ集めて発電所をつくって継続していくのは、大変無理な面がある。

議員研修視察

6月28日・29日に山梨県都留市及び富士河口湖町を訪ね、議員15名(全員)、副町長、事務局職員2名が参加して平成24年度の議員研修を実施しました。

都留市では、水車による小水力発電施設を設置し、発電した電気を市役所等の電気として利用している様子を視察しました。また、富士河口湖町では、まちづくりの視点からなる観光立町推進計画を研修しました。



▲都留市(1日目)

日本のシンボルである富士山や富士五湖といった恵まれた環境に囲まれた観光客を取り込む富士河口湖町。繰り返して足を運んでもらうために、快適なサービスを提供できる環境整備、地域に愛着と誇りを持ち、将来の環境振興の担い手となる人材育成、そして「おもてなし」の向上を図られる施策を講じることなどを

都留市は、山梨県の東部に位置し、豊かな緑と清らかな水にあふれる自然環境に恵まれた人口3万5千人の小都市です。一方の富士河口湖町は、富士山と河口湖など4つの湖を有し、国内外から年間約900万人が訪れる国際観光地です。

菊池靖一

基本理念としている。観光地としてのスケールは全く違うが、大子町も地域や施設ごとといった部分的取組みだけでなく、住民や民間企業、観光協会等の団体と行政が連携し、目的を共有する施策を講じることが可能なはずだ。総合的な町づくりを実現するため、中・長期的ビジョンを掲げる必要性を強く感じた。

櫻岡義信

水力発電について、都留市は山々から出る湧水に恵まれているため市内を流れる家中川の水量が豊かであること、富士の裾野が尾を引く傾斜地であるため水の流れが急であることから、水車を回す動力源の確保に最適であると思います。同市では、水車を利用した地域新エネルギービジョンを立ち上げ、水力発電機の実験が行われています。また、水の力が見える開放型下掛水車は、最大20kWの発電能力を有し、本体の直径が6m、ブレード(板羽根)36枚の木製水車です。

中郡一彦

初日は都留市の小水力市民発電所。ここは、富士山の湧水地が数多くあり水量が豊かな地域です。明治38年には県内で2番目に電気の明かりが灯るなど水力発電への関心は古くからあり、小水力市民発電所の建設は市民に容易に受け入れられたものと思います。また、「見える発電所」という係員の説明どおり、地球環境にやさしい水力発電所

水がどのような形で水車を回しているかを見ることで、発電所のシステム、発電の仕組みもわかりやすく、児童生徒の環境学習にも効果があると思います。

私たち町でも、町に合った新エネルギーを開発していきたいと思っています。2日目は富士河口湖町。富士山を目の前に仰ぎ、富士五湖のうち4湖を抱える観光資源に恵まれた町です。観光は資源だけではありません。観光は資源だけではありません。町民挙げての「おもてなしの心」、「お客さんにやさしい心」が大切であり、それは全国共通だと思います。

を見ることによって、自然の大切さや自然と共生する意識の高揚につながれば素晴らしいと思います。

9月定例会開催予定

議会を傍聴 しましょう

9月定例会開催予定

▽5日(水) 開会・提案理由の説明等

▽6日(木)～9日(日) 自宅審議

▽10日(月) 一般質問

▽11日(火) 一般質問

▽12日(水) 一般質問

▽13日(木) 逐条審議

▽14日(金) 逐条審議・閉会

議会傍聴は町政を知る良い機会です。

お気軽にお出かけください。

手続きは議場(3階)の傍聴席で受付簿に住所、氏名を記入するだけです。



常任委員会活動報告

■産業建設委員会

5月24日に開催し、農林課・建設課の今年度の主な事業等について担当課長からの説明を求めました。また、袋田地内の災害現場2か所を視察して災害復旧状況調査を行いました。



■文教厚生委員会

6月14日に浄水場（大子及び生瀬）を視察し、担当職員の説明を受けて大子町の水道状況を調査しました。また、放課後児童クラブ（まいん及びだいご保育園）と放課後子ども教室（だいご小学校）の活動状況を視察しました。



人権擁護委員に 豊田京子さんを 推薦

大子町における人権擁護委員定数の増員が認められたことに伴い、新たな人権擁護委員として豊田京子さん（小生瀬3964番地）を法務大臣に推薦することになりました。

任期は3年です。



選挙管理委員及 び選挙管理委員 補充員

平成24年6月28日任期満了の大子町選挙管理委員及び選挙管理委員補充員の選挙を議会において行った結果、次の方が当選しました。

任期は、平成24年6月29日から平成28年6月28日までの4年間です。

◇選挙管理委員

○宮園美次さん（70歳）
北田気501番地2



○石井 彪夫さん（69歳）
内大野2456番地



○手塚 宣彦さん（66歳）
芦野倉467番地



○綿引 滋子さん（64歳）
浅川3157番地6



◇選挙管理委員補充員

○久保田和恵さん（66歳）
大子806番地

○鈴木 俊嗣さん（66歳）
町付2642番地3

○宮田恵早夫さん（61歳）
頃藤5169番地2

○佐藤 厳さん（60歳）
下野宮5444、
5451番地

○久保田和恵さん（66歳）
大子806番地

○鈴木 俊嗣さん（66歳）
町付2642番地3

大子町議会 広報委員会

- 委員長 齋藤 忠一
- 副委員長 金澤 眞人
- 委員 大森 勝夫
- 委員 藤田 友晴
- 委員 藤田 稔
- 委員 藤田 稔
- 委員 吉成 好信
- 委員 野内 健一

あとがき

今年の3月に実施された町議会選挙後、臨時議会が開かれ、新体制の下スタートしてからの3か月がたった。多くの課題が山積みし、これからの議会のあり方も問われるなか、議会改革を目指し、勉強会を重ねている。少しでも町民の皆さんと共に語り合える「出前の議員報告会」も予定している所である。私も広報委員として、町民の皆さんにわかりやすく、関心のもてるような広報活動をしていきたいと思っている。

（齋藤忠一）

今回の表紙

今年度の議員研修視察は、全員参加のもと山梨県都留市及び富士河口湖町を訪問して実施されました。

